

脊髄損傷者・二分脊椎症患者にとっての 新たなデバイス・ギャップについて（要望）

日頃より脊髄損傷者、および、二分脊椎症患者へのご支援を、医療制度面より前向きに取り組んでいただき、ありがとうございます。

我々、脊髄損傷者、二分脊椎症患者は適切な医療的・社会的ケアシステム等、実際の生活の中での様々な問題について、多様な意見を集約し、以下のことを要望いたします。

現在、脊髄損傷患者は全国で10万人、二分脊椎症患者は全国で3万5千人おり、その多くが、神経因性膀胱により、尿をうまく体外に排出できない排尿の問題をかかえております。こうした患者は、膀胱から尿を定期的に出すために自己導尿が必要なため、外出がままならず、トイレでの排尿に非常に時間がかかる、あるいは痛みが伴うなど、社会生活上の問題を抱えています。昨今はその様な問題を軽減でき日々のQOL向上に欠かせない製品も出ていますが、下記に挙げる課題が存在するため、使用できる患者がほんの一部にとどまっているのが現状です。

社会的活動全般で、就業中やスポーツを含めよりアクティブの視点から、「清潔間歇導尿」が現状有している課題について、下記二点が、一日も早い実現することを強く要望いたします。

1. 短期的には、先進諸国で普及が進んでいる高機能な自己導尿カテーテルの日本での処方可能にする環境の整備を要望します。この使用時に痛みを伴わず、より簡便に利用出来る親水性コーティングのカテーテルを一日も早く使用できるようになること。

また同時に、一時的にカテーテルを留置することにより、外出時や夜間の長時間の睡眠を容易にするナイトバルーンカテーテル等の製品は、昨今、ようやく日本でも手に入れられるようにはなりましたが、残念ながら、現在の診療報酬水準では、病院が処方すると赤字になる等の収益性の観点から、施設の判断でこれらの先進諸国並みのカテーテルを処方して貰えない患者が国内ではほとんどです。このナイトバルーンカテーテル等の製品を使用できるようにすること。

このように必要とする多くの患者に最適なカテーテルが処方され、利用することでQOLの向上につながる環境の実現をお願いします。

2. 中長期的には、脊髄損傷や二分脊椎症の患者を診る泌尿器科医の育成をお願いします。脊髄損傷や二分脊椎の患者特有の泌尿器の状況を診る泌尿器科医の育成を通じ、我々を取り巻く医療環境・社会生活環境が発展していくよう、制度的支援をお願いします。

2015年9月8日

保険局長 唐沢 剛 殿
医療課長 宮崎雅則 殿

公益社団法人全国脊髄損傷者連合会	NPO法人日本せきずい基金	日本二分脊椎症協会
代表理事 妻屋 明	理事長 大濱 眞	会長 谷村 珠江

カテーテルのイメージ



間欠式バルーンカテーテル



親水性コーティングカテーテル

株式会社ディヴィンターナショナル、コロプラスト株式会社 ホームページより